

## 中学校の部 優秀賞

四国防災八十八話 第26話 お母ちゃん行けんもん

「お母ちゃん行けんもん」を読んで

一本松中学校 1年 ふくしま 福島 しいな 志生凧

私は、「お母ちゃん行けんもん」という言葉の意味、つまり、どうして行くことができないのか、どこへ行くことができないのか、を知りたくて、この話を読みました。

これは、津波によって二人の子どもを亡くした母親が語ったものです。地震が起きたことを知っていたのに、逃げることを一番に考えず、浜が静かだからと、持って出る食料や着物の準備に時間を取り、その結果逃げ遅れてしまいます。四女を背負って逃げた長女が、前にも進むことができず、後戻りもできない状況の中で、「お母ちゃん、どっちにも行かれないけれど、どうしたらいいの。」と、母親に助けを求めた言葉でした。長女はきっと恐怖でパニック状態ではなかったかと思います。私でも、妹を背負った状態で逃げ道が閉ざされればパニックを起こして何も考えられなくなると思いました。

この話から、私は、幾つかのことを学びました。一つは、地震が起きた場合は、揺れや家の倒壊の危険だけにとらわれなくて、まず、津波などの二次災害を想定し、避難することを最優先にすることです。命があればなんとか生きていけるからです。二つ目は、近所の人たちや地域で避難を促されたら、それに従うことです。自分の勝手な判断で行動するのはとても危険だからです。三つ目は、事前の準備をしておくことです。家具などを固定したり、避難用品をそろえて、いつでも持ち出せるようにしておいたりすることです。そして、どんなルートでどこへ避難するかを家族で話し合っておくことです。そうすれば、時間を取られずに、安全に避難できると思うからです。

今回私は、第二十六話を選びましたが、四国防災八十八話のすべてが、命の大切さや災害の恐ろしさ、家族愛、地域の人とのつながり、危険な考え方や行動など、さまざまなことを教えてくれるものでした。多くの人に読んでほしいと思いました。